

2510地区 ロータリークラブ各位

≪世界ポリオデーに参加しよう!!≫

ポリオ撲滅に御協力を（ポリオ撲滅は今！）

このたびポリオ撲滅活動資金を確保する目的で地区クラブにはご寄付をお願い申し上げております。地域社会の方など広く募金を行い目的を達成するためには、ポリオ撲滅に関する必要性のご理解を得なければならぬと考えております。活動に際し、もう一度地区ポリオ委員会として整理させて頂きました。各クラブに於かれましては様々な行事、会議など盛りだくさんのご予定がおりますが、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

*下記にポリオの情報をQ&A形式にて整理いたしました。

質問1. ポリオとはなんですか

回答 ポリオ（小児麻痺）とはポリオウイルスによる伝染病です。感染した場合ウイルスが神経組織に侵入し、身体（特に下肢）の麻痺や時には死に至ることもあります。特に5歳以下の幼児が感染する確率が高い日本では小児麻痺と呼ばれています。後遺症による麻痺は治療で治すことは現在では不可能で、最善の対策は予防であり、幼児へのワクチン投与が重要となります。

日本では、1960年（昭和35年）に、5,000人以上のポリオ患者が発生しましたが、ワクチンの導入により流行は治まり、1980年（昭和55年）以降、新たなポリオ患者は発生していません。世界では、1985年と比較し99.9%減少しました。

質問2. ポリオの現状はどのようになっていますか？

回答 野生ポリオウイルスによる感染が続いているのは、パキスタンやアフガニスタンやナイジェリアの3ヶ国のみとなっていました。しかし、ナイジェリアは昨年7月24日よりポリオの発生が確認されていません。現在、99%ポリオは減少して来ましたが専門家は、今ポリオを撲滅しなければ、今後40年の間にポリオ感染は1,000万件に達すると予測しています。

質問3. 解決するための課題は何ですか？

回答 残る1%のポリオとの闘いが、最も困難であると云われています。これは地理的な隔離、乏しいインフラ、武装紛争、文化的障害と云った要因が予防接種活動の妨げとなっているためです。ポリオを撲滅するまでは、世界中の国が再発生のリスクにさらされています

質問4. 残る1%セントの闘いを成功させるために何が必要ですか？

回答 ポリオ撲滅活動には、引き続き資金が必要とされます。撲滅活動の運営、医療従事者の確保、研究所の設備、保険従事者と親への教育など資金の確保が重要です。ロータリーはビルゲイツ&メリンダ財団との新しいキャンペーンを行っています。(ポリオ撲滅の為にロータリー財団寄付の2倍の寄付を上乗せする)

質問5. 世界ポリオデーは何を目的に行うのですか

回答 嵯峨ガバナーは、ポリオ撲滅を重点目標の1つに掲げ、2510地区各クラブで、ポリオ撲滅の運動・募金をより一層推進して頂きたいと考えています。世界ポリオデー10月24日は、各クラブ(あるいはグループ)単位でポリオ撲滅推進イベント(街頭募金やチャリティーイベントなど)を盛り上げ企画・実行して頂きたいと考えております。ポリオ撲滅活動は年度を通じて行われますが、運動を盛り上げ推進するため、先導し、押上げる企画が重要であり、多くのクラブが年度の早い時期に活動に参加し体験することにより2510地区が纏まって目標を達成することが可能となると考えております。

ポリオプラス委員会では、その際のサポートグッズとして、募金箱シール、ポスター、チラシ、のぼりなどを準備しております。地区ホームページ、ポリオプラス委員会よりダウンロードを行いご利用願います。また、世界ポリオデーに係る説明用ツールも同様ホームページよりご利用願います。別紙にありますように、end polio now のバッジを追加御購入いただき、街頭募金の際、普段の例会の際にも御利用頂き、広くポリオ撲滅の重要性をお伝え頂きたいと思っております。

平成27年8月吉日

国際ロータリー 2510地区 ポリオプラス委員会